

1. 開催概要

開催施設名	会期	入場者数
東京国立博物館	平成 24 年 10 月 10 日～12 月 24 日	141,507 人
神戸市博物館	平成 25 年 2 月 2 日～4 月 7 日	87,320 人
名古屋市博物館	平成 25 年 4 月 24 日～6 月 23 日	57,054 人
九州国立博物館	平成 25 年 7 月 9 日～9 月 16 日	77,554 人

●開催概要

本展覧会は、中国の夏王朝以降、歴代王朝の特徴があらゆる面で凝縮されている、各王朝の都に焦点をあて、南北の王朝の首都ないし周辺地域同士の対比、あるいは、同一王朝の首都と副都の対比等を通して、中国文明が多角的に発展してきた過程を最新の発掘の成果も踏まえながら概観したものである。日中国交正常化40年の節目を迎えるのを機に、NHKの大型番組とも連動して開催した。

本展覧会は、広大な中国の各地から、各時代・地域を代表する作品を一堂に集めるという中国国内で開かれる展覧会に比べても質の高い多岐にわたる内容で、日本初公開の作品を含む 172 件のうち、国宝級にあたる国家一級文物が 102 件を占める、破格の質と規模を実現することができた。

全国 4 会場を巡回することで、中国美術の精華を紹介する機会を巾広く設け、36 万人を超える方が来場した。特に、日本初公開で、展覧会のハイライトのひとつとなった「阿育王塔」(2008 年発見)には、多くの来場者から賛嘆の声が寄せられた。

2. 補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

<p>1. 展示作品の質・量の充実</p> <p>本補償制度の適用を前提とした交渉により、中国側所蔵者の理解を得ることができ、出品作品 172 件のうち 102 件が一級文物という破格の展覧会を実現することができた。特に本制度の適用により、展覧会の趣旨を実現するうえで非常に重要な青銅器や木漆器などの出品が可能となった。これにより中国内でさえ実現が難しい水準の展覧会を、日本4会場で公開する機会を提供することができた。</p>
<p>2. 観覧料の軽減・無料化</p> <p>東京国立博物館では、通常実施している中学生以下の入場無料にくわえて、全期間をとおして高校生の入場料を通常 900 円より 200 円割り引いて、700 円とした。</p> <p>名古屋市博物館では、小学生・中学生の入場料金 500 円を無料とした。</p>
<p>3. 教育普及活動の充実</p> <p>九州国立博物館では、障害のある方たちが気兼ねなく安心して展覧会を鑑賞できるよう、休館日(7/29)に、障害者特別鑑賞会を実施した。介護者をふくめ 170 名が参加した。</p> <p>神戸市立博物館では、期間中の春休みに、中学生以下のこどもを対象に、展覧会鑑賞のあと神戸市内の中国ゆかりの地をめぐる神戸歴史探検1回(3/20)と親子無料鑑賞会2回(3/24)を実施した。保護者をのぞいて、94 名が参加した。</p>

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

特になし。輸送・展示、会期中の運営についても、事前に十分に協議のうえ万全の体制を整えて実施した。

4. 安全配慮に関する特別の対応

すべての作品をケース内展示とし、作品、来場者双方の安全確保をはかった。

輸送時には、すべての作品のクレートにショックウォッチを、特に重要な作品のクレートにはタイマー付きのショックウォッチと、データロガーを設置し、クレートにかかる衝撃などを記録する体制をとった。結果として、ひとつたりとも反応することなく、安全に作品を輸送したことがデータからも裏付けられた。

東京展終了後、中国側主催者の立ち会いのもと作品の状態を確認したところ、1件の作品がこれ以上の展示に耐えないと判断されたため、神戸展、名古屋展、福岡展での展示を見合わせた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

本補償制度の適用をうけて、出品作品について国外への持ち出しが制限されている国家一級文物が約6割を占めるという破格の規模と質を実現し、しかも全国4会場を巡回しての開催が可能になった。のべ36万人を超える来場者をむかえ、「優れた美術品をより多くの国民が鑑賞できるよう、質の高い展覧会が広く全国で開催されるよう国が支援する」という本制度の趣旨を十分にふまえたものとすることができた。

本補償制度の適用については、展覧会場で表示したほか、展覧会公式サイトにロゴ入りで掲載、展覧会図録にも記載するなど、制度の紹介に努めた。

日本側との窓口は、中国文物交流中心が中国国内すべての館を代表することとした。この結果、中国文物交流中心のみとの交渉となり、本補償制度の適用についても理解を得やすい環境を整えることができた。中国の文化財の海外貸し出しなどについて重要な役割を担う中国文物交流中心と協力しながら、本補償制度の適用を受けた展覧会を実施できたことは、今後の中国からの出品に向けて、意義ある実績となった。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名 東京国立博物館、神戸市立博物館、名古屋市博物館、九州国立博物館、NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社

●収入

内 訳	決算額
展覧会収入・その他収入	万円 48,704
共催者負担	万円 17,727
収入総額	66,431

●支出

内 訳	決算額
企画準備等基本経費	万円 35,673
設営・運営等会場関係経費	万円 30,758
支出総額	66,431